

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第4号（通算65号）
令和元年7月22日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



四つ葉学園 小中合同防災訓練
中学3年生から救急搬送法を教
わりました。

6月23日(日)

道徳的行為に関する体験的な学習とは

小中一貫教育推進課 指導主事 青木利恵子

道徳科における質の高い多様な指導方法について、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」が例として挙げられています。

その中の一つ、「道徳的行為に関する体験的な学習」を学ぶ機会として、6月14日（金）に三条市教育センターで「道徳教育研修」を行いました。講師は、上越教育大学の早川裕隆教授です。

「道徳的行為に関する体験的な学習」とは、役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深めようとするものです。

この講座は、早川教授の指導による模擬授業が行われました。先生役も児童役も講座の参加者が行います。教材は小学1年生の「くりのみ」というお話で、きつねとりすが出てきます。

きつねもりすも、どちらもはらぺこで、2匹は別々に木の実を探します。きつねは、たくさんの木の実を見つけ、木の葉の中に隠します。そして、うさぎに出会ったとき、「何も見つからなかった。」と嘘を言います。そこで、うさぎは、自分が見つけたたった2つしかない木の実を1つ分けてあげるというお話です。

模擬授業は、うさぎと出会ってからの場面の役割演技をしました。役割演技は、即興的に行うものなので、教材のお話に乗っていない場面やセリフなども、つくっていきます。うさぎ役の女性教諭から木の実を受け取った、きつね役の男性教諭が顔を手で覆う場面がありました。最初は気が付かなかったのですが、きつね役の方は、本当に涙を流されていたのです。そして、きつね役の方は「本当は、木の実をたくさん見つけた。」ということをして話して、どこに隠したのか教えてあげるところまで演技をされました。

演者はもちろんですが、見ている側にとっても、うさぎの行為やきつねの涙について実感的に考え、道徳的価値を心で理解することができた時間だったのではないのでしょうか。役割演技は高学年でも中学生でも十分に取り入れられます。そして、学年があがるほど深い演技や考え方の表出も期待できます。

皆様にも実践していただきたいと思いますが、早川教授は、ある本※の中で実践するにあたって注意を呼びかけています。それは「いじめの場面の役割演技はしてはいけない」ということです。「役割演技は単なる『芝居』ではなく、自分の生々しい経験として実感し、理解されるので、負の感情を味わうと、心理的なダメージを受けることがあることも肝に銘じたい。」と。児童・生徒の心が傷つく授業は、教師として避けなければなりません。自己肯定感や道徳的実践意欲が高まる授業にしたいものです。

※「小学校新学習指導要領 ポイント総整理 特別の教科道徳」2017 東洋館出版

教育センターの研修の紹介

新学習指導要領対応研修

7月10日(水)に新潟大学教職大学院一柳智紀准教授様を講師にお招きして、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」というテーマでお話をいただきました。主な内容は「単元づくりと学習問題◎」「分からなさを大切にする」「聴き合う関係を育てる」でした。途中グループ演習が何回も行われ、参加者は互いに聴き合いながら、考えを深めている様子が伺えました。



(グループ演習の様子)

【参加者の声】

- ・新学習指導要領の内容を授業でどう実現していけばよいか具体的に教えていただけてよかったです。
- ・「聴いてもらえる安心感」というキーワードが最も印象に残りました。
- ・グループで考えることで、一人で学ぶより効果的なことがいくつかありました。

学びのユニバーサルデザインに基づく 授業づくりのポイント

令和元年6月24日に新潟大学教職大学院古田島恵津子教授による学びのユニバーサルデザインに基づく授業づくりのポイントについて研修を行いました。

発達障害の特性をはじめ、聴覚過敏や物の見え方、感覚過敏についての具体的な様子を体験できるVTRを見て普段の生活や需要での困り感について説明していただきました。

～演習より～

「4つの感覚を活かした学習スタイル」(抜粋)

学習する際の有意感覚を知れば、あなたにとって効果的な学習のヒントを得ることができます。そこで、あなたが聴覚、視覚、言語感覚、触覚のどの感覚を通して物事を認識する傾向があるかを見ていきます。担当されている子どもたちはどんなタイプでしょう？

- A 教科書の資料を読むよりも、講義を聞く方が頭に入る。大声で読むと理解しやすくなる。
 言葉で伝えられたことをそのまま繰り返すことが簡単にできる。相手の声の調子や言葉に反応しやすい。
- B 頭の中でいろいろ考えてる時間が多い。意味が通るかどうかにかかわる。
 新しい事実やデータを関連づけたり、理解したりすることが得意
- C デモンストレーションやテキストを見るより、自分で体験することを好む。
 実際に動いてみたり調べたりすることで理解する。
- D 後で思い出すためにメモを取っておく修正がある。
 話を聞くときには、話をしている人の顔や表情や身振り、手ぶりを見る。

[A:聴覚系、B:言語感覚系、C:触覚系、D:視覚系]

A聴覚系

聞いて覚えるタイプ

B言語感覚系

言葉で意味づけし覚えるタイプ

C触覚系

体験して覚えるタイプ

D視覚系

見て覚えるタイプ



“ハイテクもいいですが、人の手・アナログの大切さを子どもたちに伝えて、伝統を…” (昨年度受講された方の感想から)

ビジネスか 伝統か…

～「脱皮しない蛇は死ぬ」～

「新たな発想を生み出す力(創造性)」が育まれますように

「三条学講座」受講、ありがとうございます！

時折、昨年度講座修了後に寄せていただいた声や職人・講師の方々からの話を振り返っています。ある職人(伝統工芸士)の方が、こんなことをおっしゃっていました。

「若い頃は悩みました。周りの鍛冶屋はみんな工業化して、より速く・より安くして時代に対応していました。ビジネスか伝統か…。結局、伝統的な技術を継ぎ、少量でも品質の良い刃物をつくる道を選びました。伝統って革新の連続だと思えます。脱皮しない蛇は死にます。今バーチャルの世界に慣れてしまった子どもたちに、『手づくりの温かさやつくり手のポリシーが込められている昔ながらの製法のよさ』を伝えたいです。ものづくりが地域の若者にとって魅力ある職業となるような環境をつくっていききたいです。…」

H31年度「三条学講座」の予定()内はH30年

回	講座名(期日)	受講者数
1	郷土の偉人 諸橋徹次博士(6/5)	11(16)
2	包丁研ぎ講座(7/25・26・31)	55(34)
3	和釘づくり講座(8/9)	10(16)
4	三条鍛冶の歴史(ルーツ)(8/21)	7(8)
5	三条刃物について(9/13)	11(10)
6	秋の大崎山をたずねて(10/11)	2(11)
7	包丁づくり実技講座(11/9)	20(16)
合 計		116(111)

年度途中の申込み大歓迎です！気軽にご連絡を。(教育センター：星野)

今後ますます AI 技術の発展に伴い、IT 産業が脚光を浴びていくことと思います。教育界でも 2020 年度から「プログラミング教育」が小学校で全面実施となります。「プログラミングスキル」を身に付けていく状況がいやおうなしに求められます。

「ものづくり」への影響も看過できません。子どもたちには、「新たな発想を生み出す力(創造性)」がどんどん育まれていくことを願っています。そんな学習環境のちょっとしたきっかけを提供できる「刃物・ものづくり教育」「三条学講座」でありたいと願っています。過日書店で「GAFA(Google・Apple・Facebook・Amazon)」という言葉が目。容易な情報入手・一瞬にして「つながる」環境。便利さは願ってもないことですが、人間本来の「創造性」「ひらめき」はどうなっていくのでしょうか。

～ 大崎山は自然がいっぱい～子どもの科学教室「生物教室」～

今年度最初の「子どもの科学教室」として「生物教室」が6月8日(土)、9日(日)の両日、大崎山を会場に開催されました。今年度は、NPO法人にいがた里山研究会代表の小林良範さんからご指導をいただきました。

1日目は、体育館で、標本による説明と工作です。最初に、ヒメアオキの葉に自分の名前を書いて名札を作りました。葉の裏に木の枝で名前を書くと、次第に黒く変色し、名前がはっきりしてきます。「葉に文字を書いた」ことが「はがき」の由来だそうです。次に、小林さんの持ってきた標本を見ながら、動物や昆虫のお話を聞きました。最後に、工作として「木の枝の鉛筆」と「イタドリの笛」を作りました。

2日目は、「木の葉のビンゴ」をしながら大崎山を散策しました。グリーンスポーツセンターの体育館を出て、大崎山公園に向かいます。途中から脇道を通ります。枝を折ると良い香りのするオオバクロモジ、天ぷらにするとおいしいコシアブラなど、植物の名前と特徴を確認しました。公園では、「観測日食の碑」を見て、休憩所で「アリジゴク釣り」をしました。その後、植物を観察しながら永明寺に向かって山を下りました。途中、危険な植物「ヤマウルシ」がありました。葉が着いている軸が赤いヤマウルシは要注意です。さわると、かぶれたりします。麓に着くと、帰り道は舗装道路を体育館に向かって登ります。モミジチゴが黄色い実をつけていました。

この教室は、子どもたちにとって、自然と直接触れ合う2日間になったのではないかと思います。



名札作り



イタドリの笛作り



大崎山の散策



アリジゴクの成虫ウスバカゲロウ

三条市の防災教育の取組

三条市教育委員会は、「新潟県防災教育プログラム」が推奨している「姿勢の防災教育」を実践しています。

「姿勢の防災教育」とは、自然の“恵み”と“災い”の2つの側面を伝え、その自然と向き合う姿勢をもつことである。地域（自然）のよいところ（恵み）を知り、郷土に誇りを持ち、大切にする気持ちを育む。その一方で、ときに発生する自然の営みのひとつである災害（災い）をやり過ごす知恵を身に付ける。地域が好きで愛着があるからこそ、そこに住み続けたいと思い、その思いがあるからこそ、いざというときにも主体的に自らの命を守り抜きたいという思いが生まれる。

各校におかれましては、新潟県防災教育プログラム（洪水、地震、津波、土砂、雪、原子力災害のカテゴリー）に基づき、自校の立地条件等を考慮して、防災教育授業の実践に努めていただきありがとうございます。

防災教育 授業研修会

平成 25 年度から開始した防災教育授業研修会は、年度ごとに学園を指定し、その学園内の学校で実施しています。全クラスの公開授業と講演会（東京大学大学院：片田敏孝特任教授／群馬大学大学院：金井昌信教授）を開催しました。



6月13日 栄中学校

防災教育 学園教職員 研修

左記で指定された学園の教職員が、金井昌信教授の指導の下、災害時に学校が取るべき行動についてのワークショップを行い、素早い判断の難しさを体感しました。



6月20日 栄北小学校

三条市水害対応防災訓練

中学生ボランティア

6月23日の防災訓練では、各中学校、大崎学園において、中学生ボランティアによる活動が行われました。避難所の設営や避難所での受付、避難者の誘導や炊き出しの準備等を行いました。避難所において何が必要なのか、自分は何ができるのかを考える機会となりました。



炊き出し準備（豚汁） 第一中学校

防災キャンプ

防災教育の発展体験学習として、夏季休業中に1泊2日の日程で実施しています。指定した学園の5年生から中学1年生（原則）の希望者が、災害に関する学びを深めます。今年度は、裏館小学校（三条学園）を会場に、今月29日・30日に実施します。※参加予定33名